

くらがり沢の蛇抜け

Df/Tr



Ver.1(2020/2/1)

災害伝承 DATA

所在地：長野県上伊那箕輪町三日町
緯度・経度：北緯 35 度 54 分 2.0 秒
東経 138 度 0 分 37.0 秒
伝承形式：社寺
種類 / 要因：土石流 / 集中豪雨
災害発生：明治元年（1868）5 月 17 日
建立時期：1199 年（正治元年）澄心寺建立
指定等：なし
周辺地形：山地・段丘面



観光情報はこちら

言い伝え・伝説

1868 年（明治元年）5 月 17 日、降り続いた雨による山津波によって澄心寺は土砂に飲み込まれました。この時、澄心寺の裏山の間沢（くらがりざわ）から突然蛇が出て暴れたような見えたことから、「くらがりざわの蛇抜け」と言われています。

周辺案内

青雲山澄心寺（曹洞宗）は、箕輪郷の古刹の一つで、江戸時代には徳川家より寺領十三石の朱印を受領していました。澄心寺の西にある御府社、秋宮社、北西にある御旅所の三社をあわせて御射山三社といいます。毎年 9 月に行われる例祭では、秋宮社のご神体を御旅所に遷座し、3 日間の神事を行っています。